

授業科目	言語聴覚障害診断学				
担当者	森田婦美子・高木卓司・中村靖子・他				(オムニバス)
実務経験者の概要					
学科名	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

- ①運動障害性発話障害が生じる神経的基礎を踏まえ、障害レベルに応じた評価を行い、適切な訓練目標を設定して実施できるようにする。運動障害性発話障害の原因と、それに応じた発声発語器官の形態。機能の検査、発話の検査による評価と訓練、および発話補助手段について述べる（講師非公表）。
- ②一日見学実習施設の概要、過去の実習の様子の説明。療養型医療施設における摂食嚥下分野の援助について説明。また、経口摂取の重要性について学生同士のディスカッション、経管栄養が高齢者に及ぼす影響、実際の症例についての説明。（高木）

■ 到達目標

運動障害性発話障害が生じる神経的基礎を踏まえて発声発語器官の形態、機能の検査、発話の検査による評価ができるようになる（講師非公表）。

一般的な療養型医療施設における ST の状況を理解し、どのような ST になるかという目標設定、材料の一つを得る。（高木）

■ 授業計画

- 第1回 導入：運動障害性発話障害の障害レベルと評価について（講師非公表）
- 第2回 発話の検査（標準ディサースリア検査、発話明瞭度検査）（講師非公表）
- 第3回 呼吸機能、発声機能の評価（講師非公表）
- 第4回 鼻咽腔閉鎖機能の評価（講師非公表）
- 第5回 口腔構音機能の評価（運動範囲）（講師非公表）
- 第6回 口腔構音機能の評価（運動速度）（講師非公表）
- 第7回 口腔構音機能の評価（筋力）（講師非公表）
- 第8回 機器を用いた検査、反射検査など（講師非公表）
- 第9回 VTR による症例呈示と検査の実施（講師非公表）
- 第10回 VTR による症例呈示と検査の要約（講師非公表）
- 第11回 評価結果のまとめと所見作成（講師非公表）
- 第12回 評価結果の分析と考察（講師非公表）
- 第13回 一日見学実習施設の概要、過去の実習の様子の説明。
療養型医療施設における摂食嚥下分野の援助について説明。（高木）
- 第14回 経口摂取の重要性について学生同士のディスカッション。
経管栄養が高齢者に及ぼす影響、実際の症例についての説明。（高木）
- 第15回 II期実習ガイダンス カルテのみかた（森田）

■ 評価方法

筆記試験100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予め授業前にテキストの準備物と評価手順と基準の箇所について目を通してきてください。授業後に配布資料とテキストを読んで復習しておいてください。事前に検査で使用する物品の作成など準備が必要です。（予習、準備 1.0時間）

■ 教科書

書名：標準ディサースリア検査

著者名：西尾正輝

出版社：インテルナ出版

■ 参考図書

■ 留意事項

集中的に連続して講義するのでなるべく出席するようにしてください。

一日嚙下実習あり。臨床実習Ⅱのシラバスも参照すること。

■ 講義受講にあたって

事前に、基礎科目で学習する脳神経の基礎知識を理解しておくこと。